

手づくり保育応援マガジン

保育のひろば

Hiroba 1

2011 January

節分のせいさく

お面・衣装・豆入れ・ゲーム

パネルシアター

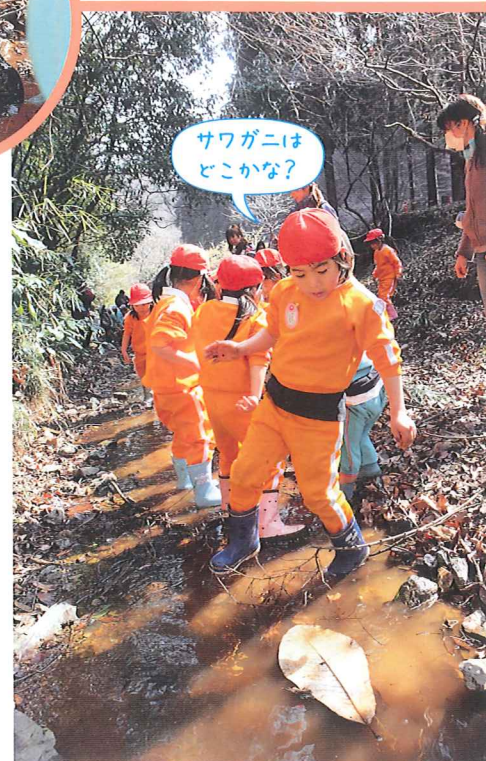
おだんご ころころ



特集 冬の自然は
発見がいっぱい

ルートその2
サワガニはどこかに
いるかな？

川あそび



ちょうど日差しが出てきた時間に、小さな川で石をめくりあげ、サワガニ探しを楽しみます。水は冷たいけれども、体もたくさん動かしているのだからかばかしている様子。ほとんどの子がジャンパーを脱いであそんでいました。

ルートその1
小さな新芽を
見つけよう！

新芽探し



虫めがねを手に、初めてのうちは地面ばかり見ていたのですが、ふと顔をあげた先に新芽を見つけた子が現れると、すぐにほかの子どもたちも見つけられました。新芽もスケッチします。色や形など、特徴をよくとらえていました。枯れてしまったように見える木も、春の準備をしているのが見つけれられたことでしょう。

ルートその3
新しい命を
感じられるかな？

カエルのタマゴ



池にはカエルのタマゴの大きな固まりがありました。よく見ると、池のあちこちに大きな固まりや両手ですくえそうなほどの大きさの固まりがあります。タマゴの中の黒い点がおタマジヤクシになることに気づくと、子どもたちは虫めがねを使ってよく観察していました。観察したあとは、ノートにタマゴの絵を描きます。



engaihoiku*report

冬の自然は おもしろい

冬の寒さがまだまだ厳しい2月に、森林のある広い公園へ出かける元気な子どもたちがいました。東京都八王子市にある東京ゆりかご幼稚園の子どもたちの、真冬の園外保育の活動を紹介します。



カエルの
タマゴ



この葉っぱ
オモシロイよ。



いくよ。

さむいわ。

お〜い！
春はどこかな？
春はまだかな？

東京都の中でも自然に囲まれた環境にある東京ゆりかご幼稚園は、近くの広大な公園に、年に何度も出かけています。春や秋はもちろん、真冬にも！寒い冬でも、自然には楽しみや発見がたくさんあると園長先生はおっしゃいます。実際に子どもたちとまわってみると、冬の山は生き物もあまりいないものと思っていました。それは、春にいつせいに活動を始めるための準備をしているようにも見えました。

冬があるから、春が来る。そんな当たり前のことに気づくことも、感受性の豊かな幼児期にこそ大切な体験と言えるかもしれません。ここでは、「春の準備をしている生き物を見つけ、季節の移り変わりを感じる」「それをスケッチしたり、園に戻ってから調べたりする中で、理解を深め、知識として身につけること」をねらいとした4歳児の園外保育での4つの活動を、具体的にご紹介していきます。



特集

冬の自然は 発見がいっぱい



著／内野彰裕（東京ゆりかご幼稚園園長／東京都八王子市）

寒くなると戸外に出ることをためらいがち。でも冬には冬ならではの発見がいっぱいありますよ！
氷・霜柱・雪・白い息・葉を落とした樹木・生き物の暮らしなど、自然の不思議な現象や変化がたくさん見られます。
きっと子どもたちは素朴な疑問を投げかけてくるでしょう。
また大人を驚かすような「言葉の宝石」を聞かせてくれることでしょう。
子どもたちの発見や想像を受け止めて、自然の好きな子に、そして寒い冬でも外あそびが大好きな子になってほしいですね。
まずはむずかしく考えずに、外に出てみましょう。
きっと身近な「冬」を感じられるはずです。



冬は葉が落ち、木立にトリを観察しやすい季節です。前にトリを見た場所で、バードコールというトリのさえずりの音を出す道具でトリに話しかけます。バードコールのネジの部分をひねると「きゅっきゅつ」と音が鳴りますが、その音がトリのさえずりによく似ているため、トリがこたえて鳴いたり、寄ってきたりすることがあるそうです。しばらく空や木々を眺めて待ちましたが、あいにくトリの返事を聞くことができませんでした。下見に訪れた際には鳴き返してくれました。それでも自然ならではの体験といえるでしょう。



やってみませんか？

近くの広い公園や森に、バードコールや双眼鏡を持って出かけてみませんか？

バードコールの作り方

- 用意するもの
- 小枝（5cmくらいのよく乾燥したもの）
 - アイボルト（ネジの太さが6mmくらいの太いもの）
 - ドリルなど穴を開けるもの
 - 首にぶらさげるためのヒモ（なくてもよい）



- ① 木の中心に、ドリルなどで1～2cmの深さに穴を開ける。
- ② 穴にボルトを回し込む。このときに「きゅっきゅつ」とトリの鳴き声に似た音が出る。
- ③ ボルトにひもをつけたり、まわりに絵を描いても楽しい。



あそび方

トリがいそうな場所で、バードコールを鳴らします。トリが返事をしてくれるか、耳を澄まして聞いてみましょう。
トリの声が聞こえたら、トリの声に合わせて交互に鳴らして、お話してみよう。
トリのいる場所がわかったら、双眼鏡で見えてみましょう。双眼鏡は本物でなくてもOK。充分に探検気分が味わえます。



発展

園庭にトリがあそびに来られるように、えさあげ台を置いてみませんか？
季節の果物や実を置いておく、トリがあそびに来てくれます。保育室や職員室などの室内から観察できる位置にあるとよいでしょう。
収穫したものをトリさんにもおすそ分けしてあげたら、子どももトリも、きっと喜びますね！



49ページからの特集では、このように子どもと楽しむ自然あそびを紹介しています！併せてご覧ください！





冬のかき氷屋さん
様々な色に染まる雪。色水あそびを、雪でも楽しんでみよう。
真っ白な雪が鮮やかに染まっていく様子は、お祭りのかき氷屋さんでシロップをかけてもらったワクワク感を思い出してほしい。

**雪が積もった日は、ほかの活動を
変更しても外であそばせてあげたいですね。
子どもたちと一緒に、
保育者も思い切り雪あそびを楽しみましょう。**
※園庭だけで足りないときは近くの駐車場などから
いただいてもいいですね。地域の方も雪かきをしないで
すみませんし、むしろ一緒に運ぶの手伝ってくれることも！

いろいろな雪あそび



心も体も
ポッカポカ。

思い切り雪合戦！
雪合戦は冬の豪快なあそびの一つですね。
大人チームV.S.子どもチームでおこなうと白熱！
5歳児の冬ともなると、たくましさや備わり、
中途半端な戦い方では納得しません。子どもたちも
思い切り挑んで来るので、保育者も思い切り
応戦しましょう。大人が本気であそんでいる様子は
子どもたちの心に強く焼きつくと思いますよ。
子どもたちも個人の力ではかなわないとわかったら、
作戦を練ってチームワークで攻めてくるでしょう。
最後は保育者が園庭の隅に追い込まれて降参……。

雪の帽子探し

場所によっていろいろな形に積もる雪。
ブランコ・鉄棒・飼育小屋の屋根・花や
木の枝など、帽子のように積もった雪の形を
見てみよう。溶けて形が変わっていく姿も
見られると、驚きに繋がっていきますね。

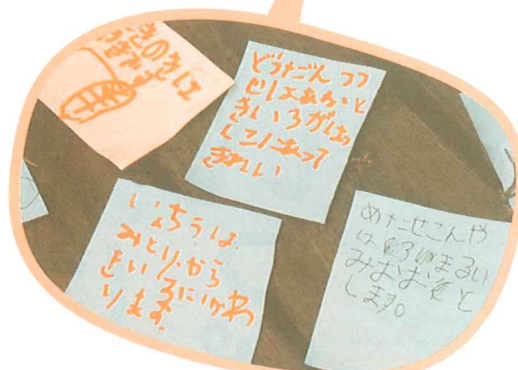


アドバイス

落ち葉というと秋を思い
浮かべますが、12月ごろに
落葉する木もあります。
また、葉だけでなく、実
などでも構いません。
名前がわからないことはよく
あるでしょう。教えてあげ
てもいいですし、子どもに
よっては自分で好きな名前を
つけることもあります。形や
色を見て創造していくのも楽
しいものです。
読み札を書くことはむずか
しいと感じるかもしれませんが、
葉っぱを見て子どもたち
と共感し合ったこ
とをそのまま書け
ばよいのです。



葉っぱの
プールだよ。



- 1 自分の気に入った落ち葉をカルタの大きさの画用紙に、
セロハンテープで貼ろう。
- 2 葉っぱの名前の、最初の1文字をひらがなで書く(「モミジ」ならば「も」)。
- 3 読み札用の画用紙に、葉っぱを見て
感じた言葉を書いていこう。
(「もみじのはっぱはあかくてきれい」など)

落ち葉のカルタ(5歳児向け)

お正月あそびのカルタあそびから発展させて、落ち葉のカルタを
作ってあそんでみましょう。思い思いの楽しいカルタができますよ。

氷であそぼう

冬の寒さ、冷たさを強く
感じさせてくれる氷。水たまりや池、
バケツなどに張った氷で
いろいろなあそんでみましょう。

- 1 手で持ってみよう。
- 2 虫眼鏡のようにしていろいろな
景色を眺めてみよう。
- 3 落として割ったらどんな音がする？
- 4 お日さまに当たったらどうなるかな？
- 5 葉や小枝など、いろいろな物を一緒に
凍らせてみよう。氷の芸術ができるよ。



あれれ？ お顔も、
なんだか
不思議な形に。

アドバイス

小川のおサカナさんは寒くないのかな？ 氷を取ってあげると暖か
いんじゃないかな？……子どもたちから様々な声が聞かれます。
氷はそのときの条件によって厚さが様々。冬の始まりの薄く繊細な
氷から、真冬の重厚な氷まで、同じ冬でもその変化を感じとること
ができます。
氷を顔に近づけて見ると、向こうのお友だちや景色が違って見え
ます。相手から見た自分の顔も違って見えて、互いに笑い合えますよ。





森の美術館（4・5歳児向け）

園庭の少しさびしい冬の木々をすてきな名札で飾りつけてあげましょう。名札自体が作品になり、園庭がちょっとした美術館になりますよ。



あそび方

太めの枝をスライスしたものや、かまぼこ板のようなものに、油性ペンなどで木の名前や葉の絵、実の絵などを描いてみよう。



アドバイス

材料は知り合いや、近所で剪定や間伐をしている業者さんに頼んでおくと喜んで分けてくださいます。自分たちが作った名札で木を飾ってあげると、その木に親しみもわいてきます。また、園庭の木々の名前をグループや班の名前にしても、より一層愛着がわいてきますよ。

木と仲よしになろう

冬の森は、葉が少ない分、幹を観察しやすいものです。森や林に出かけ、五感を使って木とお友だちになってみませんか？

顔や目を探してみよう！
木によっては様々な模様が
見られます。
目の形をした模様は
見つけやすいです。
さあ、どんな模様を
発見できるかな？



木の声を 聞いてみよう！

聴診器を使って
耳をすませてみよう。
何か聞こえるかな？

※聴診器は少しの音でも
とても大きく聞こえま
す。集音部分をたいた
り、大きな声を出すと、
鼓膜に影響があります
ので、取り扱いには充
分に注意しましょう。



木のおいを
かいてみよう！
鼻を近づけて
かいてみよう。
木によって、
においは
違うかな？



どんな
においがする？

くんくん

木になってみよう！

全身を使って
いろいろな木の
形をまねてみよう。
木の気持ちも
わかるかも
しれないよ！



ぼくたちの
気持ちに
なってね。

木にさわったら
どんな感じかな？



木（樹皮）にさわってみよう！
手でさわったり、
抱きしめてみよう。
どんな感じがする？



ぼくは
大きな
木だよー。

ぼくは細くて
小さな木だよー。

自然の中の子どもたち

内野彰裕

子どもたちは、自然と接するとき、「なんだろう？ おもしろい！ さわつてみたい！ でもちょっと怖い……」など、様々な感情を抱きます。そしてときには科学的にとらえたり、ときには感情移入をしてストーリー性をもたせたりと、年齢や状況によってとらえ方が様々です。ですから、科学的な問答をくり返すだけでなく、それぞれの状況に合わせて一緒に疑問をもって考えたり、調べたり、空想したり、楽しんだりすることを大切にしたいと思っています。きつと現実と空想とが行き来する中で、自然あそびも縦横無尽に広がっていくのでしょう。

子どもの目の届くところに、「自然」を置いて

子どもたちが入園するとき、私たちは「子どものあるがまま（自然）」を受け入れることを大切にしています。子どもは地球の自然に抱かれ、その一部として生まれてきます。しかし、いつの間にか大人になるにつれ、自然にとってはむしろ驚異となるような存在に変容してしまうように思います。だからこそ、人間が自然とつながり合いながら生きていく大切さを考え、幼いころからの環境を整えていってあげなくてはいいかなと思います。そのため、私たちは、どれだけ身近に自然を意識できるか、いやむしろ無意

識的に自然を存在させるかが大切なのだと思います。園庭・テラス・保育室の隅など、子どもの目の届くところに、小さくてもいいから子どもの興味をそそる自然（植物や生き物・自然物の装飾など）を置いてみてください。保育者が何も言わなくても、興味をもった子どもたちは主体的にかかわっていきこうとするはずです。普段おとなしかった子が、生き物や植物を前に急によくしゃべるようになったりすることもあります。そして、たくさんさんの「不思議」を発見し、眺めたりさわったり、虫眼鏡で観察したり、疑問に思ったことに図鑑を取り出して調べていくことでしょう。

保育者の役割として大事なことは、子どもの感性をそつと受け止めて興味から関心への歩みをできるだけさげざらないよう環境を与えること、時間を与えることです。そして何より、子どもたちの発想や喜怒哀楽を、そばでそつと受け止めてあげること。

そうすること

で、子どもは

自然の素晴ら

しさや大切さ

を感じ取って

いけるのだろ



持ち物、公開します。

自然を愛する園長先生の、リュックの中身を見せていただきました。めずらしい道具がいっぱい！虫眼鏡や図鑑はもちろん、ロープやボイズンリムーバーなる毒虫に刺されたときに毒を吸い取る応急処置用の器具まで！保育者も全員がネイチャーゲーム指導員の資格をもち、それ以外の自然あそびの指導資格をとっている方もいるそうです。



1 昆虫図鑑 2 野鳥図鑑とサウンドリーダー（各頁のバーコードをなぞるとそのトリの音がします） 3 折りたたみ式カゴ 4 手作り手帳 5 バードコール 6 ダックコール（アヒルの声の笛） 7 ドングリ笛 8 双眼鏡 9 ロープ 10 ボイズンリムーバー（蜂・毒蛇対策） 11 小刀 12 折りたたみのこぎり 13 木の笛数種 14 磁石つき笛 15 観察用虫眼鏡 16 昆虫観察キット（トリプル）



内野彰裕（東京ゆりかご幼稚園園長先生）

木の枝であそぶ

冬は園庭や地域でも木を剪定することが多いですね。こうした枝を園庭に運んで山積みしておいてみよう。さあ、子どもたちはどうするか？

実や枝で何ができる？

残っている木の実をむしり取ったり、枝を折ってみたりしよう。友だちと協力したり、何か作ったりするきっかけになるよ。



友だちと協力して、木を折るよ。



剪定された木を、分けていただきました。園庭に積んでおきます。

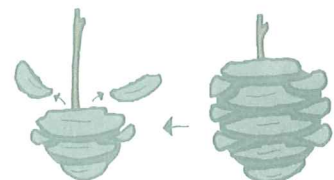


いっぱい
とれたね。

実をいじって、何か作るのかな？



園庭のメタセコイヤの木を切ってもらいました。実をより分けます。



実の上のほうをむしって、コマにします。

木の実でコマを作ったよ！

メタセコイヤの木の実であそんでいるうちに、いつの間にか、子どもたちが開発した作り方です。

たき火に挑戦！

環境が許せば、たき火ができると楽しいですよ。冬はある程度乾燥しているので燃えやすいでしょう。枝を細かく折って、たき火に放りなげるのは子どもたちにも簡単です。1人で折れない枝は、友だちと協力して折ったり。枝が無くなりそうになると、園庭のあちこちから小枝や葉っぱを拾ってくるでしょう。



ペタペタ
貼るよ。

アートの挑戦！

段ボール紙や画用紙、ボンドなどを用意しておくと、園庭で自然物製作が始まります。